

意見書を提出後、報道陣の取材に応じる自民党の参院議員1期生。左は大沼瑞穂氏

＝国会



## 「合区」反対の 意見書を提出

自民参院1期生

参議院の「1票の格差」

是正に向けた選挙制度改革で、自民党執行部が隣接す

る一部の選挙区を統合する「合区」を検討していることに対し、同党参院議員の1期生が27日、溝手頭正参院議員会長と面談、都道府県単位の選挙区を維持し、合区は行わないよう求める意見書を提出した。

意見書は▽地方の意見の国政への反映▽衆院と参院の機能分担―といった観点で、都道府県単位で地域の意見を集約することが望ましいとして、合区は行わないよう要請。多様な人材を確保するため、全国比例の現行制度(非拘束名簿式)を維持するよう求めた。

本県選出の大沼瑞穂氏ら同党の1期生36人全員が賛同した。